釧路教育　３１３

令和５年３月

発行／釧路市教育委員会　教育支援課　釧路教育研究センター

〒０８５－００１６　釧路市錦町２丁目４番地　Tel (0154)23-5189　Fax (0154)25-5999

巻頭言

「研究の成果と真価」

釧路市教育委員会　学校教育部長　　齋藤　優治

将来の変化を予測することが困難な時代を前に，これからの子供たちには，社会的・職業的に自立した人間として，伝統や文化に立脚し，高い志と意欲を持って，蓄積された知識を礎としながら，膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し，自ら問いを立ててその解決を目指していく力が求められます。また，学校教育においては，子供たち一人一人の可能性を伸ばし，新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成することが一層重要となります。

このような中，釧路教育研究センターでは，釧路市における教育目標と教育推進の重点の具現のため，今年度より研究グループを３つに再編し，今日的な教育課題について実践的な調査・研究を推進しています。

学習指導・開発研究グループでは，「一人一台端末の活用による情報活用能力の育成」について研究を進めています。これからの社会においては，情報を主体的に捉えながら，何が重要かを自ら判断し，見いだした情報を活用しながら他者と協働し，新たな価値の創造に挑んでいくため，情報活用能力を身に付けることが重要です。また，日々発展を続ける情報技術を，学習や日常生活に手段として適切に活用できるようにしていく力が必要となっています。本研究では，児童生徒が身に付けるべき情報活用能力とはどのような能力であるのか，また，どのような学習活動を通して情報活用能力を育成すればよいのかについて，発達の段階に応じて具体的に示したことに価値を感じます。

子ども支援研究グループでは，「不登校児童生徒への対応」に焦点をあて，各校の実態などを調査し，取り組み事例についてまとめています。不登校児童生徒への支援に当たっては，その要因や背景をできる限り的確に把握し，児童生徒が不登校に至った状況を理解し，寄り添うことが重要です。しかし，社会や経済の変化に伴い，子供を取り巻く家庭，地域社会の在り方も大きく変容し，不登校の要因，背景もますます多様化，複雑化していることから，学校においては，校長のリーダーシップの下，学校全体で組織として対応できる充実した体制を築くことが必要となります。その上で，本研究が，釧路市教育委員会が作成した「長期欠席・不登校支援リーフレット」を基にしながら，各校のより具体的な取り組み事例を示したことは，大変意義深いことだと感じます。

郷土読本・地域学習研究グループでは，小学校３・４年生の社会科で活用する郷土読本『くしろ』の編集・改訂を中心に活動をしています。少子高齢化や人口減少の加速化など，地域社会の環境が大きく変わる中，地域社会の魅力を発見する学習や地域課題を探究する学習を通して，地域社会への愛着や誇りを育むとともに，地域社会の一員としての自覚を養う必要性が謳われています。郷土読本『くしろ』は釧路の自然や文化，歴史，産業などについて写真や図・表を多様に用いて丁寧に解説されており，社会科の学習で郷土釧路について探究的に学ぶ動機付けを与える中心的な役割を果たしています。

２月に行われた第２回合同研究グループ委員研修会兼研究成果報告会では，各研究グループより市内全小・中学校及び義務教育学校に研究の成果が報告されました。釧路教育研究センターの研究が，今後も市内各校の教育研究と実践に寄与することを期待しています。

各研究グループの今年度の活動報告

学習指導・開発研究グループ

今年度，学習指導・開発研究グループでは，「一人一台端末の活用による情報活用能力の育成」を重点とし，児童生徒に情報活用能力を育成する際の指針となる体系表の作成とＩＣＴを効果的に活用した授業実践について研究を進めてきました。以下，今年度本研究グループで行った実践と，次年度の展望について紹介させていただきます。

活動の一つ目は，釧路教育研究センターミニ研修講座「一人一台端末活用の充実」の実施です。本講座では，ロイロノート・スクールの活用方法をはじめ，Google Jamboard や Google スライドを用いた授業実践を紹介したり，受講された先生方に実際に授業を体験していただいたりしました。小学校４学年社会科「水はどこから」の実践紹介では，課題設定の場面で Google Jamboard を用いることで，個々の疑問を交流しながら分類し，単元を通して追究したい課題を主体的に設定させるためのツールとして，端末の活用が有効であることを紹介しました。また，中学校３学年英語科「Let' s make an English HAIKU.」の実践紹介では，Google スライドの共同編集やコメント機能を活用することで，生徒同士が作成した俳句へアドバイスや感想を伝え合うことが可能となり，交流の中で学びを深める効果が期待できることを紹介しました。Google Workspace for Education アプリの基本操作の確認や，効果的な活用を目的とした実践事例の紹介は，参加していただいた先生方に今後の活用の参考にしていただける内容となりました。

活動の二つ目は，情報活用能力体系表の作成です。文部科学省が示した情報活用能力の体系表例をベースにし，各学校が情報活用能力をより具体的に捉え，児童生徒の発達段階や教科等における位置づけを明確にしながら，教科等横断的な視点で育んでいく指標となるよう作成しました。各校にてぜひご活用いただければと思っております。

次年度は，「情報活用能力体系表（釧路市版）」を基にした授業実践を公開できるよう，研究を進めて参ります。本研究グループの取組が，先生方の日々の実践の一助となれば幸いです。

学習指導・開発研究グループリーダー　早川　将光（景雲中学校）

子ども支援研究グループ

子ども支援研究グループは，今年度，「釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ，いじめ，不登校への対応，個に応じた指導の進め方等について，調査，研究し，釧路市における子ども支援の在り方について，実践を蓄積しその成果を発表すること」を目的とし，研究を進めて参りました。

市内各校における不登校の実態調査を通して，各校にて問題解決に向けた様々な取組をしていることがわかりました。しかし一方で，特に若手担任教員が問題解決に向けた見通しや具体策がもてずに苦悩しているという実態も明らかになりました。

そこで本研究グループは，「担任が一人で抱え込まないために」というテーマを掲げ，日常から先生方が心がけておく事柄について，実践例を交えながら整理することにしました。その後，どのような事例を紹介することが先生方の一助になるかを議論し，研究グループ内で話し合いを進めていきました。「日々の授業の質の向上が，学校生活の大きな魅力となる。」「授業も含め，誰しもが居場所のある学級づくりが大切である。」「若い先生方が周りに相談できる校内体制の構築が重要である。」「保護者との関わりは必要不可欠だが，話す内容やタイミングを若手教員が自分で判断するのは難しいため、支援が必要である。」等，様々な意見が交わされました。そしてそれらの事例を分類し，①授業，②学級経営，③情報共有，④保護者対応の４つの観点で対応をまとめることにしました。

まとめにつきましては次年度各校の事例も踏まえながら作成し，特に若手教員が不登校対応で困った時に手に取っていただけるようなものにしたいと考えておりますので，ぜひご活用いただければ幸いです。

子ども支援研究グループリーダー　大場 公博（昭和小学校）

郷土読本・地域学習研究グループ

郷土読本・地域学習研究グループでは，小学校第３・４学年で活用する郷土読本『くしろ』の編集・改訂を中心に活動してきました。今年度は，主に４つの改訂作業を行いました。これらについては，前号（所報３I２号）で詳しく書かせていただきましたので，今回はロイロノート資料箱に入っている本研究グループのデータについて，一部紹介させていただきます。

３学年４単元「わたしたちの市のあゆみ」で学習する「昔の道具」と，４学年４単元「地域で受けつがれてきたもの」の参考資料「アイヌ」について学習する際の参考となる授業プラン（指導案）が入っています。

「昔の道具」については，博物館学芸員をゲストティーチャーに招く授業プランが４つ入っています。「アイヌ」については，「楽器の演奏」「言葉・地名」「今と昔のくらしの違い」「文様」「歴史・文化」の授業プランが５つ入っています。

さらに，写真のみと写真と説明付きの２種類がセットになった「昔の道具カード」や，アイヌ協会と博物館それぞれから借用可能な「アイヌの道具一覧データ」も入っています。

上記以外にも，小学校第３・４学年の社会科で活用できるデータが，ロイロノート資料箱にはたくさん入っています。詳しくはＱＲコードの動画（操作解説付き）をご覧ください。

郷土読本・地域学習研究グループリーダー　北岡　知樹（大楽毛小学校）

第２回合同研究グループ委員研修会 兼 研究成果報告会

２月１６日（木），釧路教育研究センターにて，第２回合同研究グループ委員研修会 兼 研究成果報告会が行われました。

学習指導・開発研究グループからは，「情報活用能力とは何か」についての説明と，その育成のために必要となる指標「情報活用能力体系表（釧路市版）」についての紹介がありました。

子ども支援研究グループからは，「学級担任が日頃から意識すべきこと」として「授業」「学級経営」「情報共有」「保護者との連携」の４つの視点について，「不登校児童生徒に対する日常の支援の在り方」についての発表がありました。

郷土読本・地域学習研究グループからは，郷土読本の部分改訂について報告がありました。また，ロイロノート資料箱に入っているデータの紹介と，その活用方法を動画にしたものが紹介されていました。

例年，本研究会は研究グループ委員のみで行っておりましたが「市内各校にその研究内容を広める」ことを目的にオンラインでライブ配信しました。さらに，時間に都合がつかなかった先生方が視聴できるよう，オンデマンド配信も行いました。各校の先生方から直接感想をいただくことができ，次年度も，釧路市の先生方の日々の実践に役立てていけるような研究を推進していこうと決意を新たにしたところです。

釧路教育研究センター　教育講演会

２月４日（土）に，釧路市生涯学習センターまなぼっと幣舞大ホールにて「教育講演会」が行われました。

今年度は「脳トレ」で有名な東北大学加齢医学研究所所長 川島隆太氏をお招きし『脳を知り，脳を育み，脳を鍛える』という演題でご講演いただきました。

人間は，対面でないと共感的な感情が芽生えないことや，スマホは脳の発達を阻害するため子どもの学力に大きな影響を及ぼすなど，脳波測定や長きにわたる追跡調査から得られた科学的根拠に基づいた説明には，大変説得力がありました。参加者からは「スマホの影響力を多くの大人が知るべき。」や「スマホ・タブレットの活用の仕方を考え直していきたい。」「教師として親として子供達の未来に向けて考えていかなければならないことを再認識することができた。」といった感想が寄せられていました。また，釧路市が推進している「読書活動」が脳を活性化させるには最適であるとご示唆いただき，学校，家庭において，情報機器の使用の仕方や読書の推進について考える大変貴重な機会となりました。

長きに渡る歴史に幕

釧路教育研究センターの機能が移転

今年度をもって，釧路教育研究センターの機能が共栄小学校へ移転され，建物としての使用を終了することになりました。研究センターとしての業務が開始されたのは昭和２７年，当時は釧路市教育研究所として，また現在地に開設されたのは昭和５６年３月のことだそうです。釧路市の教職員の皆様は何度もこの教育研究センターを訪れたことがあるかと思います。私自身，平成２３年から１０年間，この教育研究センターに通い続けました。各校から集まる研究所員の方々と夜遅くまで教育について語り合った所員室。専門委員の先生方と授業づくりや研究紀要作成に頭を悩ませた研修室。どの場所も，共に研究にたずさわった先生方とその時々の研究内容が結びつき，自分自身を磨いた大切な場所として記憶に残っています。約４０年に渡り釧路市の先生方の学びと交流の場としてたくさんの先生方を成長させてくれた釧路教育研究センター。今までありがとうございました。

釧路教育研究センターは，令和５年度より共栄小学校を拠点とし，新たなスタートを切ることになります。釧路市の先生方には今後も様々な形でご活用・ご協力いただくことになるかと思いますので，引き続きよろしくお願いいたします。